

令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年 4月14日（水曜日）

開 会 午前 9時58分

閉 会 午前11時43分

○会議に付した事件

1. 移住定住に関するアンケートについて
 2. 若者定住策に関するグループワークについて
 3. その他
若者定住策について町理事者との懇談(次回開催)
-

○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	本 間 力 君
主 査	八 木 橋 直 紀 君
主 任	神 綾 香 君

人口減少に対応する政策研究会（第15回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

1. 移住定住に関するアンケートについて

(1) アンケートの活用方法

○**大淵座長** 町外居住者で白老町に住みたいと言う人は少ないことが分かった。このような結果を踏まえて何を学び、何を活かしていくか協議したい。

○**氏家委員** いろいろな角度から見てよいアンケートだった。しかし全て網羅した上で何かをしようとしても難しいと思う。例えば未婚者、既婚者、子供のいる世帯で見方は変わるのでどの層に目を向けた政策を結び付けていくかが大切である。

○**西田委員** 未婚者、既婚者では町に対する考え方や望むものが違う。独身者向けの住宅が多くできているが、子供のいる世帯へ向けた住宅が不足していると感じる。若者が住みやすいまちづくりのための情報発信などを政策研究会でできたらよいと思う。子供のいる世帯の問題点は教育の場についてだと思う。習い事の先生やチームが町内になくて町外へ行ってしまうという話も聞く。子供の育つ環境についても深堀できればよい。

○**貳又委員** アンケートの結果を見て新しい発見を得ることができた。白老町に住みたいという人、住み続けたい人の年齢や職業などについても深堀したい。町外居住者からアンケートをとれたことは貴重である。

○**久保委員** 白老町に住みたいと思う人のニーズに注目して、分析するとよいのではないか。

○**氏家委員** 白老町に住みたいと思う人の意見を反映していきたい。保育の場は充実しているように感じる。教育の場はどうかという疑問がある。小学校、中学校へ上がる段階で町外へ転出してしまうということもあるのではないか。

○**長谷川委員** 住宅についての補助や家族向け町営住宅がほしいという意見があった。他市町村で実施しているところもあるので、このほかにも住み続けたいと思う人の意見を深堀していきたい。

○**森委員** 回答率が高く驚いた。自由記述の量も多く、町民が関心を持っていることが分かったので、町民の意見に耳を傾ければ、応えてもらえると感じた。全体の意見を集約して分析していく必要がある。

○**佐藤副座長** 住み続けたいと思う人を減らさないことが大切であると感じた。町外居住者で白老町に住みたいと思う人向けの施策を考えていきたい。町外居住者の移住できない理由の中には解決できるものもあるように感じた。娯楽施設の少なさについての意見もあったが、施設の有無ではなく、自家用車の有無や公共交通機関、カーリースなどのサービス充実について考えてみてはどうか。

○**大淵座長** 町のいいところとして挙げられている「自然が豊か」という点は、年齢問わず出ている。自然豊かな環境を活かして、サービスを充実させるためにはどうしたらよいか、アンケートを基に分析していきたい。

○**氏家委員** 町にあるものを活かし切れていないのではないか。元々あるものを活かしたい。近隣市町にも目を向けて参考にできるものはないか。白老町が持っている課題の解決策を、アンケートの中から見つけ出すことができるのではないか。若者たちの活動が町外の人には認知されていないように感じる。掘り起こし、情報発信していくこと、そういった人材が必要である。

○**大淵座長** 具体的な深堀について、どの部分を掘り下げていくか考えたい。

○**貳又委員** 町内居住者で住み続けたい人、住み続けたくない人の職業や年齢などの分類や、具体的な理由について深堀したい。

○**氏家委員** 収入に関わらず、若者の独身者で少し家賃が高くてもよい住宅に住みたいという人は多いと思う。しかし、結婚したら家族向けの住宅を探すというように、年を重ねるごとに価値観は変わっていくものである。焦点を定めることは大切だが、様々な価値観に合わせたまちづくりも必要である。

○**貳又委員** 住み続けたい人、住み続けたくない人はそれぞれ、白老町をどのようなまちだと思っているのかを知りたい。また、白老町に住みたいと考えている人は何が解決すれば移住に繋がるのか深堀したい。

○**大座淵長** 深堀の仕方として、議会事務局へどの程度整理してもらおうのか。

○**本間局長** 深堀の仕方として、政策研究会で問題を提起してもらい、関連課への聞き込みや実態把

握を行う事は可能である。

○大座淵長 設問に関わらず、類似した考えについて突合していく必要がある。アンケートの深堀のための整理を行うと量も多いが、議会事務局での対応は可能なのか。

○貳又委員 大まかな傾向が分かればそこからさらに深堀していきたいので、アンケートがどのような形式で集計されているか確認してほしい。

○本間局長 アンケートの形式や内容について、中身を確認する。

○大淵座長 アンケートを実施した事業所へ訪問した際、町外居住者で白老に住みたいと言っている人は、字白老に住みたいと感じている人が多く思えた。

○長谷川委員 白老町の住宅は高いので、苫小牧市で家を借りて通勤している人もいると聞いた。住むのなら、虎杖浜や竹浦ではなく字白老を考えている人が多いように感じた。

○大淵座長 アンケートの整理については事務局と確認しながら進めていくものとする。アンケートを事業者へ渡す際、郵送がよいか訪問がよいか。

○氏家委員 訪問するほうがいいと思う。実際に行くことで聞ける話もあると思う。

○大淵座長 訪問し渡すこととしたいがどうか。(一同：よろしい)

2. 若者定住策に関するグループワークについて

(1) 総括シートの絞り込み

○大淵座長 強化したほうがよい点などについて意見を出してほしい。

○佐藤副座長 ホームページに移住者向けのページがある。そこを充実させることが必要なのではないか。ニーズに応じた物件紹介ページがあるとよいのではないか。

○本間局長 移住定住の所管は旧企画課で担当していた。物件紹介については、各不動産会社への案内はあるが、具体的な紹介はされていない。

○氏家委員 新しい起業の在り方が、白老町では可能なのではないか。実際に周りでも白老町にきて起業している人がいる。町民には気付かない魅力がまだあるのではないか。情報発信の在り方について考えていきたい。

○貳又委員 総括シートに記載されている事業は、行政や地域おこし協力隊など、どこが担当できるものなのか、何か参考にある事例はないか、集中的に絞ってみてはどうか。

○西田委員 独身者の住宅について、公営住宅の家賃補助などはできないか。白老町に住みたくても住むところが無い、家賃が高いという問題がある。

○氏家委員 未就学児のいる世帯への定住策として、子育て支援事業の充実が必要なのではないか。

○本間局長 子育て世代の環境整備について、子育てハンドブックの作成をしているが、数年あまり動きが無い。ホームページでの情報発信の充実も必要であると思う。

○長谷川委員 子育て支援課では今後移住定住を目的とした子育て講演会など、近隣の子育て世帯へアピールしていくということなので、これらと連携、他事業所とのタイアップをできたらよいと考えている。

○西田委員 子育てふれあいセンターの利用について、ひとり親世帯への補助はあるが、そのほかの世帯への補助が無いので利用できないという声も聞いている。

○大淵座長 問題が多く出ているので、次回までに絞り込みを行う。具体的な絞り方の案や進め方を考えてもらいたい。今後の中間報告や政策の絞り込みへ向けて、さらに範囲を広げるかどうかについて考えていく必要がある。外国人就労者の問題や中高生へ対するアプローチについても今後考えていきたい。若者定住について町民全体の意見やアイデアも募りたいと考えている。

○氏家委員 アンケート調査などを通して、町の課題や必要な政策についての理解を深めてきた。町が抱えている課題と研究会で行おうとしている政策が上手く合致した時に、町にとってどのような影響を与えるかを見つめていくことが必要である。高校生との懇談の場は設けたい。

3. その他

(1) 若者定住策について町長（町理事者）との懇談

○大淵座長 理事者との懇談会は28日に実施が可能であるが実施するべきか。

○氏家委員 町理事者ということは副町長、教育長も参加可能か。せっかくならば広く共有をしたい。

○本間局長 副町長、教育長の参加についても調整する。

○大淵座長 それでは2時間程度の懇談会を行うことで進めていく。進行については正副座長で調整する。